

大分支部第 34 回四極登山 大崩の辻

大 16 回 井上理

11 人が参加してミヤマキリシマの路

令和 3 年 5 月 29 日に四極会 34 回目の登山が行なわれた。今回は「大崩の辻」である。初めて耳にする人も多いかと思われるが、あの九重山群の西北、黒岩山と上泉水山の間に佇みシャクナゲやミヤマキリシマのかくれた名所で標高 1458m の山である。今回はミヤマキリシマに期待して。

まずは「おにぎり山」

今季は早い梅雨入りで空模様が心配されていたが、この日は雲はわずかでほぼ快晴、風もさわやかで絶好の天気恵まれた。8 時 20 分頃からリーダーの加藤英彦さん（大 14）の先導で長者原から 10 人が車 4 台で登山口（九重青少年の家のすぐ先）に向かう。路端に駐車し登山口へ向けて出発。8：50 草原のなか舗装された縦走路に入る。加藤さんによれば知る人は少ないとのこと。

登山口へ入る前に、手始めに 7～8 人が左手のなだらかな丘状の「おにぎり山」（標高 1083m）に登る。数分で頂上に着き雄大な景色に見とれる。左手近くに涌蓋山、正面遠方に万年山、右方遠方に由布岳の上部が小さく覗く。



360 度の絶景

縦走路に戻り 9：18 頃から大崩の辻を目指す。足元はゴロ石で歩きにくいが高さが上がるにつれ、一面緑の若草と根笹の若葉が増える。9：44 樹林の手前で小休止。ここで頂いた丸井家の枇杷で一息入れる。

振り返ると眼前には涌蓋山の麓に温泉の白い噴気が吹き上がっている。空気が澄み新緑と空の青さに感動。

樹林の中の登山道を登り、森を抜け右方が開けると数分で左手に古びて壊れかけの「大崩の辻縦走路」と読めるプレートの標識があり、そこから急坂を登る。樹林を抜け熊笹の中を進むと 30 分ほどで尾根上に出る。

お目当てのミヤマキリシマが群生し、処々に花が美しいが虫食いの葉も目立ち来シーズンが心配される。熊笹、ミヤマキリシマ、アセビの原を抜け 11 時前大崩の辻頂上に到着。全周 360 度の絶景を楽しみながら昼食休憩をとり、おやつのお裾分けを頂く。牧ノ戸から登った渡部昭三さん（大 10）が合流し 11 人揃う。



泉水山を経て下山

11:43 上泉水山を目指し下山開始。しばらく下り、シャクナゲ（既に花はなし）の森の大石の急斜面に続きミヤマキリシマの斜面を登り、なだらかな峰上で小休止。続いて緩いアップダウンの後、12 時半上泉水山頂上（標高 1447m）に至る。眼前には三俣山、右に硫黄山、星生山、左に黒岳、平治岳を見渡せる。

10 分ほど休憩し景色を楽しんだ後急坂を下る。目の前に下泉水山の緑の濃淡が美しい。13:08 頂上（1296m）に至る。岩塊の上から西方に大崩の辻の名前の由来となった大きく崩落した斜面が見える。数分して下山、2 時前長者原駐車場に到着。大 10 回生のお二人も無事に下山。登山口の車に戻り、解散。

炭酸泉で疲れを癒す

7 人で九重町の加藤リーダー馴染みの「山里乃湯」（釜の口温泉そば）に向かう。ぬるめの炭酸泉に心ゆくまで浸かり、湯上りにジュースで喉を潤す。今回は、期待していたミヤマキリシマもきれいであったが、願ってもない晴天に恵まれ、九重連山の新緑の景色を堪能でき満足ゆくの山行であった。

加藤リーダーはじめ世話人の方々に感謝いたします。
(最後に、登山者が増えるのを期待しながら筆を置く)